

令和5年度

市政懇談会

今後の方針と取り組み

1 令和5年度当初予算の概要

- 2 沼田浄水場の更新計画
- 3 横塚工場適地の整備計画
- 4 一般廃棄物処理の広域化
- 5 環境政策の推進

課題解決と未来への投資

～未来につなぐ持続可能なまちづくり～

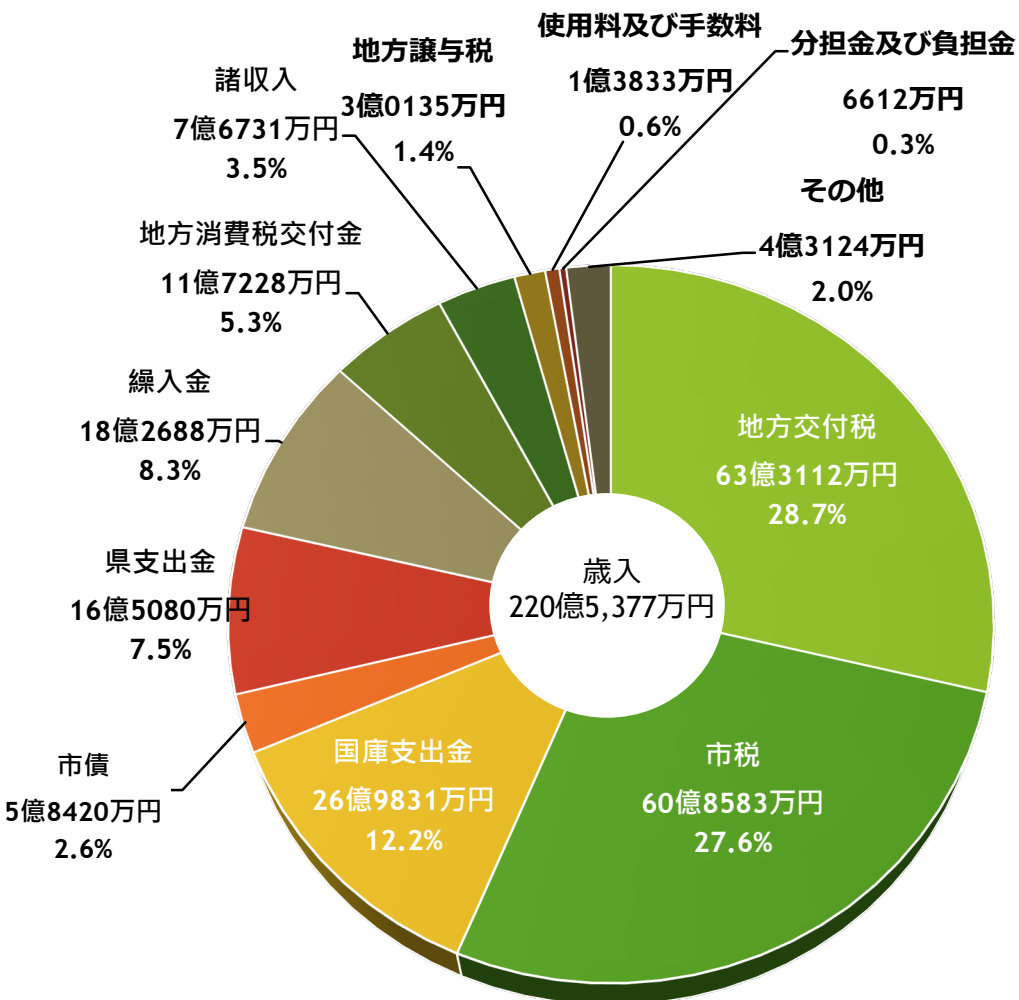
令和5年度沼田市当初予算

○一般会計の予算総額

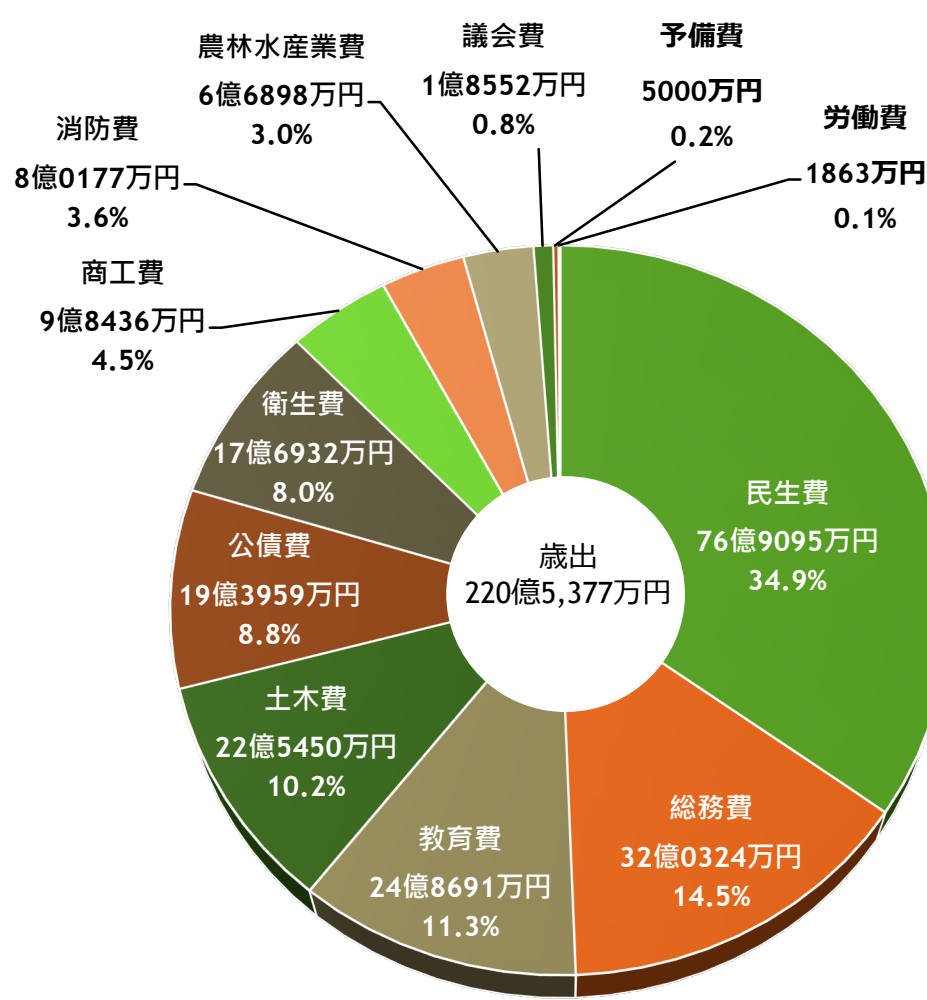
220億5,377万円

(対前年度比0.5%増)

歳入



歳出



当初予算の概要総括表

会計名	本年度予算額	前年度予算額	対前年度増減額	同左増減率
一般会計	220億5377万円	219億5214万円	1億0163万円	0.5%
特別会計	125億1293万円	125億3012万円	△1719万円	△ 0.1%
国民健康保険特別会計	56億6232万円	57億1448万円	△5216万円	△ 0.9%
後期高齢者医療特別会計	7億4035万円	7億1202万円	2833万円	4.0%
介護保険特別会計	58億8721万円	59億0941万円	△2220万円	△ 0.4%
電気事業特別会計	2億2305万円	1億9421万円	2884万円	14.9%
企業会計	35億4572万円	34億1938万円	1億2634万円	3.7%
水道事業会計	6億5724万円	5億9006万円	6718万円	11.4%
簡易水道事業会計	6億7716万円	5億9461万円	8255万円	13.9%
下水道事業会計	22億1132万円	22億3471万円	△2339万円	△ 1.0%
合計	381億1242万円	379億0164万円	2億1078万円	0.6%

令和5年度 予算編成のキャッチフレーズ

課題解決と未来への投資

～未来につなぐ持続可能なまちづくり～

課題解決の実践



地域づくり座談会

子育て支援



給食費の無償化

市内経済の活性化
生活基盤の整備



企業誘致

「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまちづくり」

注目事業

◎新規事業 10事業 総額 7億5,792万2千円

- ・ 子ども医療費の給付を高校卒業まで拡充
（福祉医療費）【35,000千円】
- ・ 予防接種事業（帯状疱疹・おたふくかぜ）
【12,311千円】
- ・ 出産・子育て応援交付金事業【26,795千円】
- ・ 若年がん患者在宅療養支援事業【351千円】
- ・ ごみ処理広域化事業【28,265千円】
- ・ 中学三年生の給食費無償化【20,981千円】
- ・ 横塚工場適地発掘調査事業【605,825千円】
- ・ 埋蔵文化財調査センター管理事業【15,894千円】
- ・ 都市構造再編集集中支援事業【10,000千円】
- ・ サテライトオフィス等誘致事業【2,500千円】

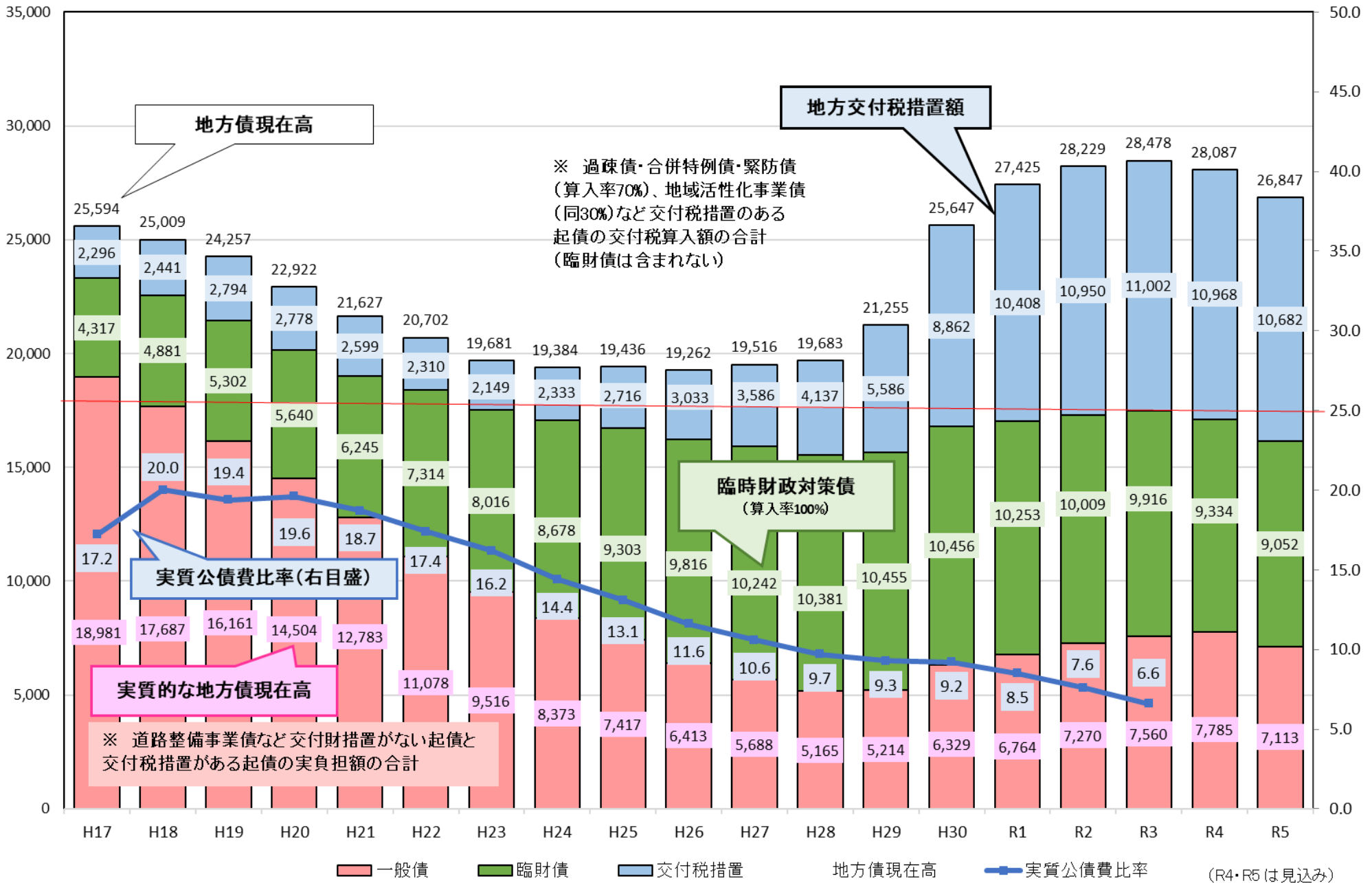
注目事業

◎ 優先主要事務事業 9事業 総額 12億2,966万7千円

- ・ 市町村乗合バス運行事業【138,805千円】
- ・ 道路施設点検整備事業
（道路施設点検事業・橋りょう補修事業）【125,840千円】
- ・ 3・3・1環状線（栄町工区）事業【240,958千円】
- ・ 中心市街地土地区画整理事業【134,551千円】
- ・ 電子地域通貨事業【360,610千円】
- ・ 企業誘致推進事業【44,353千円】
- ・ 地域自治推進事業【5,417千円】
- ・ 浄水施設改良事業（水道事業会計）【179,135千円】

(単位:百万円)

地方債現在高の推移(臨時財政対策債・地方交付税措置・実質的な負担額)



今後の方針と取り組み

1 令和5年度当初予算の概要

2 沼田浄水場の更新計画

3 横塚工場適地の整備計画

4 一般廃棄物処理の広域化

5 環境政策の推進

沼田浄水場の更新計画



国道 120 号から見える印象的な建物

洗浄用高架水槽
53年経過
昭和43年更新

ろ過池
53年経過
昭和43年更新

中区高架水槽
40年経過
昭和56年更新

沈殿池
43年経過
昭和53年更新

着水井
53年経過
昭和43年更新

沼田浄水場
下久屋町 915 番地
沼田 IC から白沢町方面に約 1.3km、国道 120 号沿いに位置します。建設当初（大正 14 年頃）は、辺り一面、桑畑でした。

浄水池
96年経過
大正14年更新

圧送ポンプ池
43年経過
昭和53年更新

沈殿池
53年経過
昭和43年更新

非常用貯水池
96年経過
大正14年更新

浄水場の老朽化

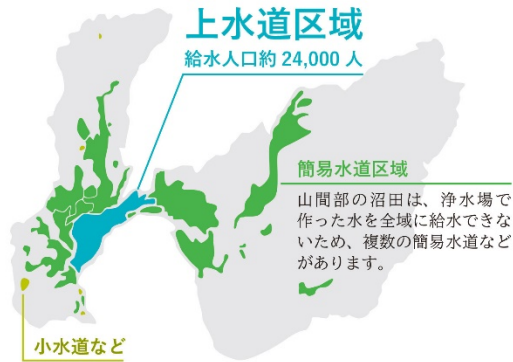
<p>中区高架水槽 40年経過 昭和56年更新</p>	<p>ろ過池 43年経過 昭和53年更新</p>	<p>沈殿池 43年経過 昭和53年更新</p>	<p>着水井・水力発電 43年経過 昭和53年更新</p>
<p>ろ過池 53年経過 昭和43年更新</p>	<p>ろ過池 53年経過 昭和43年更新</p>	<p>沈殿池 53年経過 昭和43年更新</p>	<p>着水井 53年経過 昭和43年更新</p>
<p>浄水池 96年経過 大正14年更新</p>	<p>圧送ポンプ池 43年経過 昭和53年更新</p>	<p>非常用貯水池 96年経過 大正14年更新</p>	
<p>濾留槽・排泥池・排水池 43年経過 昭和53年更新</p>			

耐用年数が迫り施設の老朽化が顕著
沼田浄水場は、昭和43年（1968）の第4期拡張事業から昭和53年（1978）の第5期拡張事業において整備された施設で構成されており、法定耐用年数（浄水施設構築物60年、電気・機械類15年）が迫りつつあります。このように、建設から歳月を経て老朽化が進行したことにより、修繕費は年々増加し、交換部品の製造が終了するなど、修繕自体も困難となりつつあります。



大正時代のレンガ造り（非常用貯水池）

このままでは、将来、安全な水の供給に支障をきたすことになりかねないため、構築物の耐用年数（60年）を待つことなく、一刻も早い建て替えが必要です。



人口の半数以上を支えるライフライン

市街地への水の供給が課題であった本市は、上下道の整備では全国でも先駆けでした。大正14年（1925）に県内では高崎市に次ぐ2番目、全国でも50番目の上下道として供用を開始しました。現在は、沼田市街地の人口約2万4千人に水を供給しており、これは、本市人口（約4万5千人）の半数を上回ります。しかし今、浄水場は、老朽化の進行により建て替えを余儀なくされています。

大正14年に供用を開始した上下道
沼田浄水場は、老朽化の進行により
早急な更新（建て替え）が必要です

全施設が **40~96** 年経過
※令和3年度時点

更新（建て替え）方法の比較検討表

浄水場



①現在の浄水場を補強する
昭和43年更新施設を除却、昭和53年更新施設を耐震補強



②現在の浄水場内にて建て替え
既存施設を運転しながら、除却・構築を行う

③現在の浄水場よりも標高が高い新規用地にて規模を縮小し、建て替え

概算事業費	耐用年数は延びず 新たに更新が必要 約65億円	仮設工が必要なため 費用がかさむ 約91億円	新規用地の取得が必要 約87億円
運転経費 (ランニングコスト)	年間約1,340万円		年間約870万円
施設容量	やや過大18,000m ³ /日	将来の水需要に対応し、適切	13,300m ³ /日
送水方式に伴う課題	現在の浄水場より標高の高い給水エリアには、ポンプ圧送が必要 × 停電すると断水のリスクがある × 圧送のエリアが広く、運転経費は高額 × 圧送施設の能力不足が解消できず、水量、水圧不足が解消できない	自然流下方式が主体 ○ 停電時の断水リスクが大幅に軽減 ○ 位置エネルギーを生かし、運転経費は低額 ○ 水量、水圧不足が解消される	
施工性	× 施工時に回避不可能な濁水が発生するリスクがある × 敷地の余剰が少なく狭小区間での施工となるため、施工困難		○ 施工時に濁水するリスクが低い ○ 施工スペースが十分確保され、安全性が高い。工期は最短となる
安全性	浄水方式 ○	施工時の濁水リスク ×	○
強靱性	停電時の断水リスク ×	適切な施設容量 △	○
持続性	維持管理性 △	事業費 △※	○
	運転経費(ランニングコスト) ○	耐用年数の確保 ×	○
総合的検討結果	×	△	○

※ ①現在の浄水場の補強案では、耐震性は向上するが耐用年数の延伸は期待できず、近い将来改築更新が必要となることから、結果的に事業費が高額となる

持続可能な新しい浄水場の検討
こうした状況から、浄水場の建て替えが必要ですが、建て替え方法は、安心で安全な水を将来にわたり継続して供給できることを第一に考えなければなりません。
老朽化した浄水場をどのように更新していくか、専門的な見地に基づき、上表のとおり①現在の浄水場の補強案、②現在の浄水場内での建て替え案、③現在の浄水場よりも標高が高い場所に移転しての建て替え案の3案を抽出し、メリット・デメリットなど、さまざまな角度からの比較検討を行ってまいりました。
比較検討した結果、③現在の浄水場よりも標高が高い場所に移転しての建て替え案が、安全性・強靱性・持続性などの面で最も優位性が高いと評価され、この方針で事業を進めていくことに決定しました。この事業の総事業費は約87億円と見積もられてい



ろ過池
53年経過
昭和43年更新



管の表面にさびが発生



沈殿池
43年経過
昭和53年更新

沈殿設備が変形し、供給能力が低下している

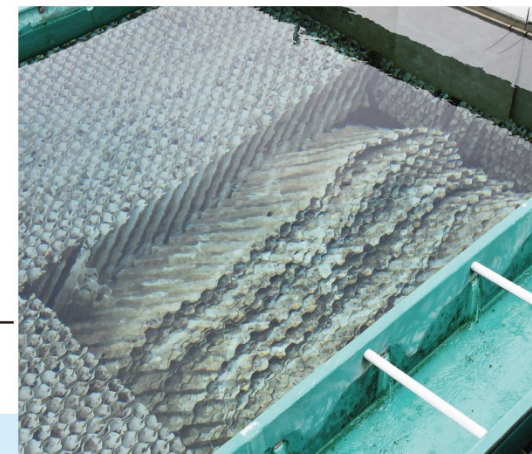


建物が老朽化して一部崩壊している



建物に亀裂が入り、雨漏りしている

老朽化の現状
現在の浄水場は、主要施設のほとんどが建設から40年、50年以上が経過し、老朽化が進行しています。例えば、建物の梁や床板など構造体のほか、ポンプ施設、配管類など、設備の老朽化が顕著です。
また、建設時からこれまでの間に、建築基準法が改正され、耐震基準が強化されたことにより、現在の構造物は、現行の建築基準を満たしていないものと推測されます。
浄水場の耐震性の確保は、早急に取り組むべき重要課題です。



今後の方針と取り組み

- 1 令和5年度当初予算の概要
- 2 沼田浄水場の更新計画

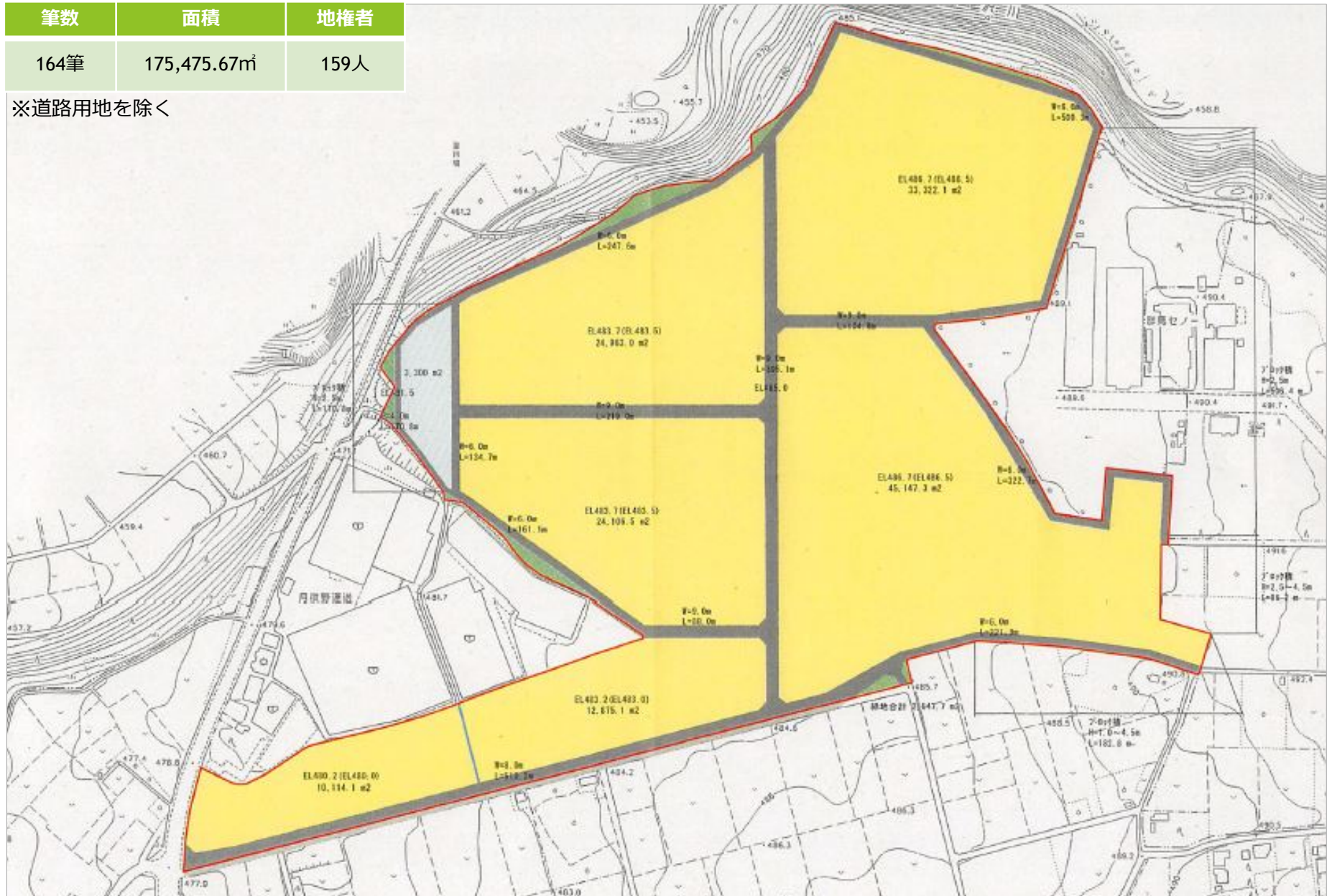
3 横塚工場適地の整備計画

- 4 一般廃棄物処理の広域化
- 5 環境政策の推進

横塚工場適地整備計画図

筆数	面積	地権者
164筆	175,475.67㎡	159人

※道路用地を除く



※区画については、イメージとなります。

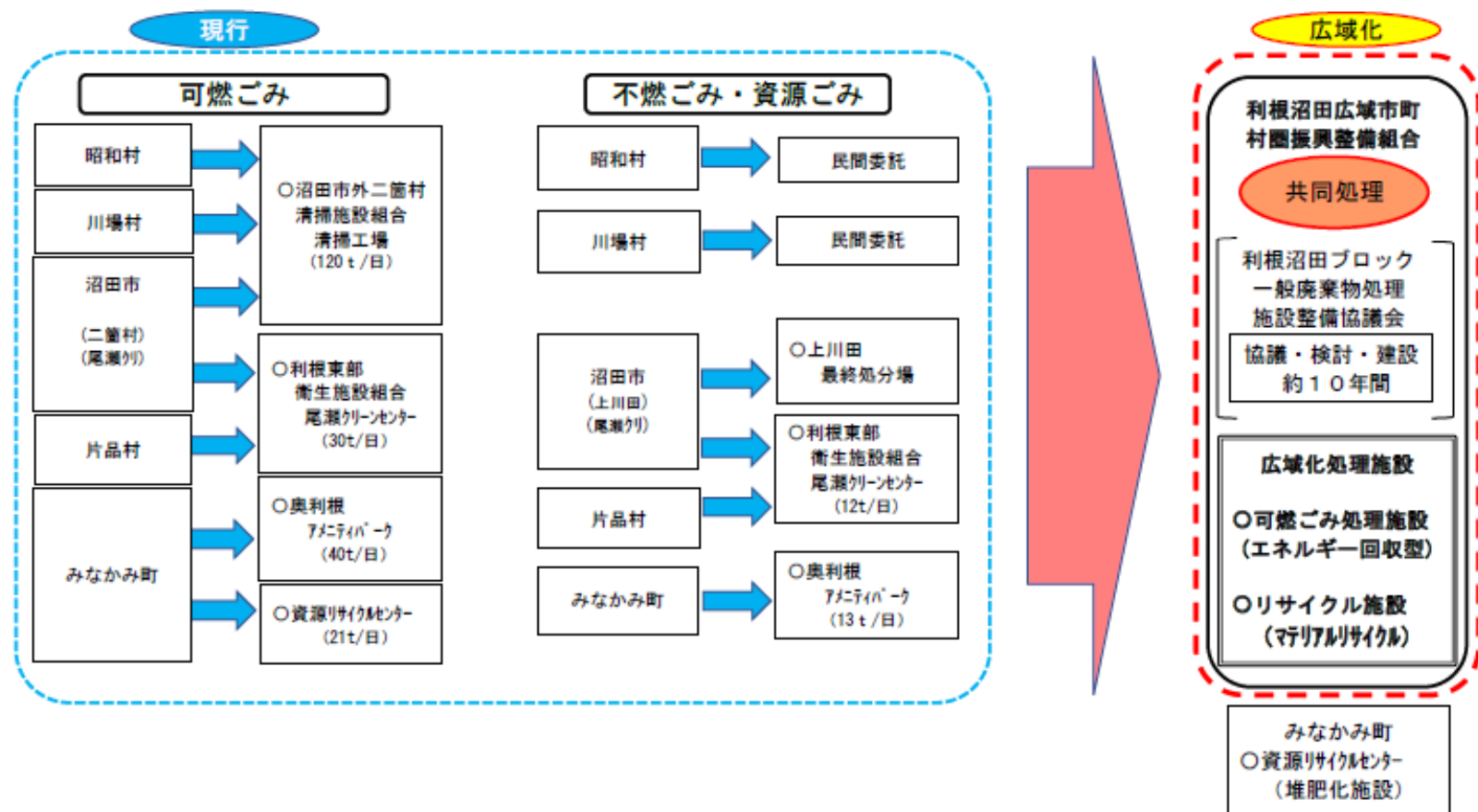
今後の方針と取り組み

- 1 令和5年度当初予算の概要
- 2 沼田浄水場の更新計画
- 3 横塚工場適地の整備計画

4 一般廃棄物処理の広域化

- 5 環境政策の推進

利根沼田ブロック 一般廃棄物処理施設広域化イメージ



施設の集約化・広域化が必要な大きな要因と目的

- ・施設の老朽化
- ・ごみ量の減少化 (人口減少/リサイクル推進)
- ・インフラコスト/ランニングコストの削減
- ・エネルギー対策
- ・施設の強靱化

広域化（施設の集約）によるメリットと課題

項 目	メリッ ト	課 題
経済面	<ul style="list-style-type: none"> ・施設集約により、それぞれで掛かる建替や延命化費用（イニシャルコスト）の削減 ・施設集約によるランニングコストの削減 ・施設集約化による人件費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・運搬距離延長による運搬経費の増加
環境面	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の処理能力の安定による大気汚染物質等の排出抑制 ・効率的な運転による燃料費の削減及びCO₂排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設周辺への運搬車両の影響 ・運搬車両から出る排出ガスの増加
資源循環面	<ul style="list-style-type: none"> ・発電や熱回収による、エネルギー利用の促進 ・リサイクルの促進が図られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の分別区分、収集方法の統一
設備面	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い施設 ・防災機能を確保した施設 	

今後の方針と取り組み

- 1 令和5年度当初予算の概要
- 2 沼田浄水場の更新計画
- 3 横塚工場適地の整備計画
- 4 一般廃棄物処理の広域化

5 環境政策の推進